

第3回定例会 一般質問

14名の議員が市政を問う



青木 和夫 議員

まちづくりについて

問 再選に向けての抱負として、以下の5点について伺う。

- ①最優先で取り組む施策は何か
- ②市の将来像をどう描いているか
- ③先導的プロジェクトの取り組み
- ④文化施設の考え方
- ⑤商業施設の考え方

答 (市長) ①コロナ対策に最善

を尽くし、その上で中長期的な視野に立ち、まちづくりを進めていきたい。②総合計画に定める「華のある都市(まち)古河」である。市政宣言のもと、最優先の施策を展開しながら発展し続ける古河市を目指したい。③新市建設計画には、(仮称)南古河駅の設置、筑西幹線道路の整備、高等教育機関の誘致、各交流拠点の整備が位置づけられている。みどりと産業交流拠点である、古河名崎工業団地や柳橋稲宮地区以外は事業化にいたっていない。現在手続きを進めている新市建設計画の10年間の期間延長を生かせるよう、事業化に向け努力していきたい。④県西地域の中心的な役割を担う都市として、文化施設は必要であ

る。芸術文化を鑑賞し、創造する機会を市民の皆さまに提供する場としてのみならず、地域コミュニティの拠点や防災拠点としての役割等も期待でき、都市の魅力を向上させるシンボルにもなる。⑤近年ショッピングモールは買い物主体の店舗のみならず、娯楽等の人を呼び込むにぎわい空間を創出し、市内立地は都市の魅力アップ等にもつながる。そのためには民間企業の力を借りなければいけないため、民間企業がさらに意欲を伸ばせる環境づくりが重要である。



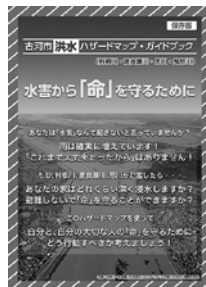
阿久津 佳子 議員

安心安全なまちづくりについて

問 コロナ禍の市内32カ所指定災害避難所運営における各避難所定員、備蓄品、分散避難等について市民への情報開示、日常的避難啓発や正常性バイアス^(※)の打破が不可欠と考える。その方策について伺う。

答 (総務部長兼危機管理監) 避難所の過密を防ぐため、6月、9月の広報号外やホームページ等

で親戚宅など避難所以外への避難の啓発を行い、また、各避難所にマスク等を配備した。正常性バイアスの打破として、マイタイムライン作成の啓発活動に力を入れて今後進めていきたい。



古河市洪水ハザードマップ・ガイドブック

子育て支援について

問 ①待機児童解消に至らぬ要因に保育士・保育補助者不足がある。方策として、保育士養成

の高等教育機関誘致、保育事業事務作業等の簡素化やICT化が必須と考える。②複数保育所通所の多子世帯へ転園調整を含めた利便性を図ることも必要と考える。その方策について伺う。

答 (市長) ①今後もICT化は進めていかなければならないため、保育士の意見を参考にしながら進めていきたい。

答 (福祉部長) ①保育士養成学科を有する高等教育機関を誘致し、新たに保育士を増やすことも重要である。②例月の利用調整で転園の可否の判定を行っている。通常転園では5点の減点だが、兄弟姉妹と登園する保育所を合わせるための転園申請時は、減点を行わず対処している。

※正常性バイアス…「自分は大丈夫だろう」と考え、心の平静を保とうとする心理傾向。